

に中農的性質をもつてゐるとは云へ、副業的な、僅かな養蚕によつて生計を立て、尚る養蚕が秋の止で
は圧倒的だ。従つて、養蚕恐慌によつても飯米問題は当然に生ぜしめられ得るのである。

穀類は春マユの圃止は、夏金五十五坪以下に下廻りしめた。秋金もそれより悪くなりうとよくは有る
まい。仮りに、年平均三坪の圃佃としても、養蚕費と餘高二億円で、一戸当り養蚕農民の減収は平均一
五〇円である。七月の全養蚕全国大会を前後にして、養蚕農民救済が叫ばれ、政府米貸下（又は特賣）
の聲は大きく、夏秋兩三割制限が叫ばれた。

政府は今までもどんな対策を實行したか？

原蚕種國家管理をやつた。輸出生糸取引法（輸出生糸内屋の免許制、輸出生糸取引の登録制）を制定
した。桑園整理改植を奨励した。二六五万円を本として圃の共同保管を奨励した。夏秋兩対策としては、
貯蔵保管奨励費一〇〇万円（内既定経費四三万円）、桑園改植助成費七五万円、桑園混作奨励費一〇五
万円（助成金及当り七円）の國庫支出と、ほかにも金部より三十万円の養蚕資金融通を開放する事にな
た。焼石に水があるばかりか、前にも述べた様に養蚕の切実な要求である飯米の貸下も代金延納も漸じ
てやらなかつたのである。そして当面の対策としてはその位しかないので臨時議會は必要ならしと云ふ
態度である。

桑園の整理改植は涉りず、マユの共同保管は生産制限の伴はる供給制限として、さらに米のようには
買入れの見込のない箇箇の圃上げとしてそれだけ農民の負担を重くしてゐる。圃の生産制限は、進歩し
た技術をもつものはそれだけ力として生産をつづけるであらうし、やうでないものは、労賃が安くば

るまで喰ひつなぐ爲に続けるであらうから、不可能である。

小麦、肥料、凶作、借金

小麦も五円と二／＼であつた。小麦と云へば政府は五ヶ年計画でその増産に力を入れたものだが、三
年目の今年早くも自給急に達し、これからは多量改良をやらうである。製粉会社はビール会社と共に
例によつて公烟購買叩きをやつたが、小麦が安くなつて、おかげで製粉を輸出しても採算がとれると思
んでゐる。西瓜、トマト、野菜などの他の畑作物も安くつた。

肥料は騰貴を示してゐる。肥料カナルは市場を涌上るために東京の輸出を自づからである。又二ハモ
つて来て、政府の態度である。目下商工者では重要肥料の生産及輸出入を許可制度とする統制法を立案
し、肥料業法策としてゐるが、消費者たる農民の利益などは少しも扱つてゐない。

全取敢は、肥料カナルの農村販賣機関と云ふ正体を隠骨くして来た。

食糧は土地に暇を余へるに云ふは余りない。所謂採算経営をやつてゐる。その肥料は土地に対するもの
にはなく、果實に対する肥料である。恐慌以後はこの傾向が益々濃くなつてゐる。そして二のことは自
然的條件に対する農業の抵抗力を奪つて行つた。昨年の豊作、今年の凶作にはかうした原因があるよう
だ。旱害、水害、植付不能等の肩卸的被害に加へて、東也、北陸は土用丸潰れ、どう見ても凶作は間違
ひない。